

◆ 住まいづくりの無料相談会 ◆

毎月第4土曜日の13時～16時、鶴屋デパート本館5階インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。

皆さんも相談員として登録しませんか！

<対応してくださった相談員の皆さま>

12月 盛高 麻衣子さん、白浜 美奈子さん

1月 松本 直子さん、村上 亜紀さん

2月 濱崎 優子さん、倉富 華奈さん

3月 西島 真理子さん、若松 恵子さん

ありがとうございました！



◆ 女性部会セミナー＆新年会を開催しました ◆

去る1月28日にセミナーと新年会を開催いたしました。

熊本地震の震源地となった益城町にお住まいのナチュラル中華レストラン藍・天（らんてん）の満田結子さまのお話は、震災直後だけでなくその後の体験までもがとても興味深く、心が引き込まれる内容でした。

セミナーの講師と会場の提供、体に優しくて美味しいお料理まで準備していただいた満田さま、本当にありがとうございました！

女性部会では今後も楽しく学びのあるイベントを企画してまいります。皆さまのご意見、ご参加、ご協力を心よりお待ちしております。

◆ 【告知】平成29年度 女性部会総会のご案内 ◆

本年度の女性部会総会及びシンポジウム会議を行います。

女性部会では、平成29年11月に女性部会主催となるシンポジウムを開催することにいたしました。東日本大震災を経験された東北3県の女性建築士をお招きし、大震災から6年たった今、熊本地震を経験した私たちの指針となるようなシンポジウムにするべく、多くの皆さまの協力を必要としております。私たちのお仕事や生活にも役立つ内容となる予定です。総会のあとにシンポジウム会議を行いますので、たくさんのご参加をよろしくお願ひいたします。

もちろん恒例の茶話会もあります♪おいしいお茶とお菓子を準備して皆さまをお待ちしております。

女性部会は子供連れ歓迎！途中参加も早退もOK！もちろん建築士会員以外の方も大歓迎！皆さまお誘い合わせのうえ、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時：平成29年4月29日（土曜日）13:00～17:00
- 場所：熊本県建築士会館 地下会議室
- 会費：500円 ※ 建築士会員は無料！
- 参加ご希望の方は建築士会事務局まで申込をお願いします（4月27日締切厳守）

TEL 096-383-3200

FAX 096-383-1543

メール LEB03540@nifty.com

お名前：

所属：

電話番号：

メールアドレス：



わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに 全員が参加できる部会活動を目指しています
女性部会の最新情報はFacebookで随時更新中！

【熊本建築士会女性部会】で検索♪



熊本地震を経験して～地震直後～

平成28年4月14日に前震、16日には本震と2度の大きな地震に見舞われた熊本地震から1年が経ちました。あの時、私たち女性建築士がどのように感じ行動したのか、記録として書き連ねていくことにします。

◆ chaos

前震・本震という言葉を知らなかった。

前震に加えて本震が発生。私が住む宇土市は「廃崩壊」というショッキングなニュースで話題となつた。TVに映る見慣れたはずの風景は自分の住む町の話ではないような気がした。

構造設計事務所を営んでいた。建築の道を選ぶ切掛けになったのは父親が工務店をしているからだ。幼い時から遊び場は現場。沢山の施主さんの顔が浮かんだ。普段通りの生活はできないと、机上を離れ、現場に行くことにした。屋根の修理をしたり、重機を運転して瓦礫を撤去したり、現場で作業員として過ごした。少しでも目の前の状況を変えたかったから。新規の構造設計の業務は受入を中止し、手持ちの物件は夜に進めるという二重の生活が続いた。

もちろん、建築士会等での動きにも可能な限り参加した。要請があった益城町には本震の日から現地入りした。爆撃を受けたような震源地付近に立った時は唇を噛み締める以外何もできなかつた。応急危険度判定はその目的から10日程度で済ませなければいけないが、判定士の不足、そもそも地域の建築士は被災者でもあり、なかなか進まず、1ヶ月経っても終わらなかつた。地震直後は誰もが混乱していて、沢山の情報が錯綜していた。

目まぐるしく変わる状況の中、適切な判断をするために「正しい情報」が必要だと思った。

頭に浮かんだのは前年に縁のできた福島県建築士会女性部会の方々。SOSを送るとすぐに有益な情報をくださつた。その他にも各地にいる友人からの応援の声、直接的な支援、人の優しさを感じ、涙が出そうになることが、数知れずあつた。

地震後は色んな人が色々な活動をしていた。良くも悪くも混沌とした状態だったように思う。"絶対熊本は立ち直る!"具体的な理由は無いが、希望を信じて行動するしかなかつた。それが地震直後の私が過ごした日々だったと思う。(続く)



谷口 規子

女性副部会長 宇城支部
(株)ビルド総合設計

◆ 被災当日 -つながる大切さを知る-

前震は五木村で体験。いつもより大きな地震に驚き、ネット等の情報で状況を確認。

熊本にいる娘に連絡し状況把握。娘が直後に職場へ向かうことを心配。

15日は役場で県の情報から益城方面の状況を知る。建築士会から電話依頼のあった16日から応急危険度判定に参加できる人を女性部会会員へ募り、自分も参加を約束。

夕方急いで熊本に戻り、次の日からの活動に参加するために自宅を片付ける。

その作業中に本震が襲いかかる。

せっかく立て起こし整理した本棚を倒れないよう押さえたが、あまりもの揺れの大きさ、長さに身の危険を感じ、近くの大黒柱にしがみ付き凌いだ。

こんな時は避難所へ!と考えたが、さて、この地域の避難所は?近隣の方々はどこに避難しているの?すでに地域の皆さん前震の後に避難所等に行かれていた方が多く、あたりはシーンとしている。回覧板を回すだけの町内活動だったことを反省しても後の祭り。どこにも行けず、玄関に布団を持ち込み、ネットラジオを頼りに夜を過ごす。2時過ぎ、県から16日の応急危険度判定が2次災害を考慮し中止となつた連絡がある。

心配してメールをくれた方々の励ましが心にしめる。一番的確なアドバイスをタイムリーに送つてくださつたのは、東北の建築士の皆様だった。余震の際に頂いたメール「まずは水の確保」。しばらくして「たまにはゆっくりお茶しないとダメよ」。緊張の糸がほぐれ、涙が出てきた事を思い出す。これらが心の支えとなり、今後の活動の礎となる。(続く)



持田 美沙子

女性部会長 人吉支部
松下生活研究所LLC.

※ 女性部会では熊本地震の体験やその後の活動を書いてくださる方を募集しています。
熊本建築士会事務局(連絡先は裏面記載)までご連絡ください。